

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成 27 年 4 月 30 日 (2015.4.30)

【公表番号】特表 2013-525755 (P2013-525755A)

【公表日】平成 25 年 6 月 20 日 (2013.6.20)

【年通号数】公開・登録公報 2013-032

【出願番号】特願 2013-504232 (P2013-504232)

【国際特許分類】

G 0 1 F 1/00 (2006.01)

G 0 1 F 1/684 (2006.01)

【F I】

G 0 1 F 1/00 G

G 0 1 F 1/00 S

G 0 1 F 1/68 1 0 1 C

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 27 年 3 月 5 日 (2015.3.5)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

管 (2) と、該管 (2) 内に取り付けられた、該管 (2) 内を所定の流れ速度で主流れ方向 (4) で流れる気体量を測定するためのセンサモジュール (3) とから成っていて、該センサモジュール (3) は管 (2) 内に前記主流れ方向 (4) で延在しており、前記センサモジュール (3) の始端部 (5) が前記主流れ方向 (4) に対して垂直な第 1 の平面を規定していて、前記センサモジュール (3) の終端部 (6) が前記主流れ方向 (4) に対して垂直な第 2 の平面を規定しており、前記センサモジュール (3) が流れ通路 (7) を有しており、該流れ通路 (7) は前記管 (2) 内を流れる前記気体量の一部を受容し、測定エレメントを介して案内する、空気流量計であって、

前記管 (2) 内に延在する流れ案内部材 (8) が配置されていて、該流れ案内部材 (8) は主流れ方向 (4) に対して平行に向けられており、前記流れ案内部材 (8) の端面 (9) に前記気体量が当接しながら流れ、前記流れ案内部材 (8) の壁領域 (10) に沿って前記気体量が流過し、前記流れ案内部材 (8) の前記壁領域 (10) は少なくとも部分的に前記第 1 の平面と前記第 2 の平面との間に延在しており、これにより前記流れ案内部材 (8) は、前記管 (2) 内の流れ速度が低い場合には、前記センサモジュール (3) の領域において前記流れ案内部材 (8) の壁領域 (10) に沿って気体量の層流を生じさせ、前記管 (2) 内の流れ速度が高い場合には、前記センサモジュール (3) の領域において前記流れ案内部材 (8) の壁領域 (10) に乱流を生じさせ、

前記流れ案内部材 (8) は台状に形成されていてかつ前記管 (2) と一体に形成されていることを特徴とする、空気流量計。

【請求項 2】

前記流れ案内部材 (8) が滴形に形成されている、請求項 1 記載の空気流量計。

【請求項 3】

前記流れ案内部材 (8) が翼状に形成されている、請求項 1 記載の空気流量計。

【請求項 4】

前記流れ案内部材 (8) が管横断面を 10 ~ 50 % 減じている、請求項 1 記載の空気流

量計。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0007

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0007】

前記管内に延在する流れ案内部材が配置されており、該流れ案内部材は主流れ方向に対して平行に向けられており、前記流れ案内部材の端面に前記気体量が当接しながら流れ、前記流れ案内部材の壁領域に沿って前記気体量が流過し、前記流れ案内部材の前記壁領域は少なくとも部分的に前記第1の平面と前記第2の平面との間に延在しており、これにより前記流れ案内部材は、前記管内の流れ速度が低い場合には、前記管内の前記流れ速度に対して前記センサモジュールの領域における気体量の流れ速度を高くし、管内の気体量の速度が高い場合には、前記センサモジュールの領域において気体量の流れ速度を前記流れ速度に対して殆ど高くしないことにより、管内を流れる空気質を極めて正確に測定することができる。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0017

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0017】

主流れ方向4に対して垂直な第2の平面は図3bにおいて、空気流量計1の空気流出側に示されている。センサモジュール3は流れ通路7を有しており、この流れ通路7は、管2内を流れる気体量の一部を受容し、測定エレメントを介して案内する。空気流量計1の管2内には、主流れ方向4に対して平行に向けられて延在する流れ案内部材8が配置されている。気体量は流れ案内部材8の端面9に当接して流れ、その後この気体量は流れ案内部材8の壁領域に沿って流過する。流れ案内部材8の端面9によって管2の横断面は減じられる。これにより、センサモジュール3の領域における圧力は上昇し、気体量の流れ速度は高くなる。これに対して、気体量が沿って流過する流れ案内部材8の壁領域10が対応している。生じる流れ速度に応じて、この壁領域10に沿って気体量の層流又は乱流が形成される。流れ案内部材8の壁領域10は少なくとも部分的に、第1の平面と第2の平面との間に延在していて、これにより流れ案内部材8は、管内の流れ速度が低い場合、センサモジュールの領域において管内の流れ速度に対して気体量の流れ速度を高める。しかしながら、管内の気体量の流れ速度が高い場合、センサモジュール3の領域において流れ速度は殆ど高められない。これは流れ速度が高い場合は、流れ案内部材8の壁領域10に乱流が生じることに起因するものである。流れ速度が低い場合には、流れ案内部材8の壁領域10に沿って気体量の層流が生じ、これにより、管2内の流れ速度が低い場合、センサモジュール3の領域において管内の流れ速度に対して気体量の流れ速度は高められる。